

第1回 鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 議事要旨

日時：令和5年2月20日（月）14:00～15:30

場所：TKPガーデンシティ京都タワーホテル 9F「八閣」

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 設立趣旨及び規約について
5. 会長・副会長の選出
6. 議事
 - ・鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークについて
7. その他
8. 閉会

■出席者（敬称略）

（委員）

- | | |
|--------|------------------------------|
| 鎌田 磨人 | （徳島大学 教授）◆会長 |
| 深町 加津枝 | （京都大学 准教授）◆副会長 |
| 中村 圭吾 | （公益財団法人リバーフロント研究所 主席研究員） |
| 丹羽 英之 | （京都先端科学大学 教授） |
| 谷口 一朗 | （※代理：京都市建設局長） |
| 林 龍夫 | （※代理：京都府 建設交通部 技監） |
| 杉山 正広 | （※代理：農林水産省 近畿農政局 農村環境課長） |
| 岩崎 靖彦 | （※代理：国土交通省 近畿運輸局 観光部次長） |
| 関根 達郎 | （環境省 近畿地方環境事務所長） |
| 田中 英二 | （環境省 自然環境局 京都御苑管理事務所長） |
| 波多野 真樹 | （国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所長） |
| 平野 雅章 | （一般社団法人自然環境文化推進機構 理事 兼 事務局長） |
| 土居 里枝 | （※代理：公益社団法人京都市観光協会 事務局長） |
| 秦 英正 | （株式会社京都銀行 公務・地域連携部 部長） |
| 村瀬 修一 | （京都信用金庫 経営企画部 部長） |
| 五十川 務 | （京都中央信用金庫 執行役員 兼 地域創生部 部長） |

（事務局）

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
公益財団法人日本生態系協会

■配布資料

議事次第

出席者名簿

配席表

資料1：設立趣意書（案）

資料2：規約（案）

資料3：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク

【議事内容】

■淀川河川事務所長 挨拶

- ・我が国には古くより昆虫を愛でる文化があり、とりわけ鳴く虫の音色を楽しむことは世界に類を見ない我が国独特の文化といえる。今、世間が昆虫に注目する中、鳴く虫を活かした生態系ネットワークの取組を、我が国の歴史と文化が薫る、ここ京都の桂川流域から開始することは大変意義深いものと感じている。
- ・2025年には大阪・関西万博が開幕し、国内外から多くの観光客が関西に来られる。本取組が多くの観光客を万博会場から京都の桂川流域に引き寄せる魅力的な文化資源の形成につながり、地域活性化に資することも大いに期待している。
- ・鳴く虫を指標種とする生態系ネットワークは、これから様々な取組に挑んでいくこととなるが、関係者の皆様のご協力により、成功させていきたいと考えている。

■設立趣旨及び規約について

- ・資料1「設立趣意書（案）」ならびに資料2「規約（案）」を読み上げ、委員の承認を得た。

■会長、副会長の選出

- ・委員の互選により、会長として鎌田委員、副会長として深町委員を選出した。

■議事：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークについて

（議事内容）

- ・資料3「鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークについて」を用いて事務局から説明した。

（意見交換）

会 長 鳴く虫は都市の文化であると感じた。京都が1000年も前から都であったことが鳴く虫の文化を発展させたのだろう。ヨーロッパやアメリカでは、身近に虫の声を聴くことはないと思われる。海外から来た人に「鳴く虫」という驚きを提供できるのではないか。例えば渡月橋の脇の旅館などで、鳴く虫を入れた虫籠を置き、ガイドが養成できれば渡月橋の下の河原で鳴く虫ツアーができると思う。

- 委員 観光や自然との親しみ方を考えた時、ライトアップや賑やかさを演出する方向になりがちだが、鳴く虫を対象とすることで月明かりの中で自然に耳を澄ますような、伝統的でありながら新しい自然とのふれあいという点で非常に可能性を感じている。また、京都に残る竹文化、竹産業との文化的なつながりも期待できるのではないかと。今後、活動を拓げるために、嵐山地区になぜ鳴く虫の生息域が残っているのかについて、学術的な理由を示した方がよいのではないかと考えている。
- 委員 昆虫は地域の取組として扱いやすいと感じている。今回の生態系ネットワークの指標種が鳴く虫であることは非常に興味深い。国交省が持つ河川環境管理シートなどの環境データと、実際の鳴く虫の分布調査結果とに、ある程度の整合性が見られる。こうした既存データを活用し、自然再生の手法を検討することも可能ではないか。流域治水の関係では官民連携で河川の維持管理、流域の環境管理が行われている。草地管理においても地域全体で盛り上げるために、官民連携の視点が重要ではないかと考えている。
- 委員 個人的な関心や専門から言えば、昆虫の生息地としてポテンシャルのあるエリアを視覚化できればと思っている。また、協議会の多様なメンバーからの多様な視点を取り入れて、多くの人に「鳴く虫が面白い」と興味を持ってもらえるような取組を展開していけるとよいと考えている。資料に掲載されていた「すずむしの里づくり」では具体的にどのような取組をしているのか。
- 事務局 宮城県仙台市の宮城野は、昔からスズムシで有名な場所であり、地域住民によるスズムシの飼育等が行われている。長野県松川村では条例をつくり、スズムシの保護に取り組んでいる。
- 委員 そういったものをこれからこの協議会で検討していくことになるかと思っている。京都の鳴く虫が面白い、という方向になっていくことを期待している。
- 委員 京都市長は常々「夜の観光に力をいれること」、文化庁の移転を機に「文化を基軸にしたまちづくりを考えること」の2点を言われている。本協議会では、それらに寄与できる取組を考えていけるのではないかと感じており、非常に楽しみであり、興味深いテーマを取り上げていただき感謝している。テーマ別のワーキングには、テーマに沿った関連部局を幅広く参加させていただき、一緒に議論していければと考えている。

委員 京都府は鴨川の管理者であるが、鴨川では、鳴く虫があまり確認されていないという現状調査の結果を聞き、少々衝撃を受けた。ほとんどが都市公園のため、刈り草の高さが短いことが影響しているのかもしれない。鴨川については行政としても賑わいづくりを展開しているが、夜に静かな中で虫の音を聴くというやり方もあるというお話は大変勉強になった。今回のこの生態系ネットワークを通じて、鴨川でも何か取組を進めていければと考えている。

委員 生態系ネットワークでシンボルとされることの多い大型の鳥類については、生態系ピラミッドの頂点にある大型の鳥類が生息することが、その下の生態系、農村が豊かであることを表し、そこで生産される農産物は安心安全で美味しいという評価をつけやすい。それが農産物の価格にも反映される。農家にプラスアルファの作業を求める場合は、農家の懐も豊かになるものでなければ拮据していくことは難しいと感じている。15年ほど前まで生きものブランドという言葉があったが、トキやコウノトリを扱ったもの以外がほとんど消えてしまったのは、価格の優位性がなくなってきていることが原因だと考えられる。今回の生態系ネットワークでは生態系ピラミッドの頂点ではなく、鳴く虫に着目した点で非常に興味深いと思っている。農業面からどのようなアプローチができるか考えていきたい。ワーキングの実施にあたっては、現場でそういった保全活動をしている個人、団体にも入っていただき、そういう方々の活動支援をしていくことを念頭に置くと良いと考えている。

会長 農業面ではエコファーマーや低農薬、有機農業などあるが、アグロエコロジーの分野で重要とされるハビタットの質という視点の指標があまりない。虫の生息と、草丈、刈り取りの頻度の関係、畦畔の重要性などの話があったが、畦畔までも配慮するという部分を結び付けていくことができればよいのではないかと考えている。これからはネイチャーポジティブの考え方で、農家だけでなく、誰もが生態系や生物多様性について理解を深めていかなければならない。この協議会の取組が、そういうことを考えるきっかけになるような活動になればいいのではないか。その際には地域で活動している方やNPOの方たちとも一緒に考え、活動を発展させていくことができると考えている。

委員 昨今はどんな要素でも観光に結び付けることができるが、地域にお金が落ちる仕組みを考える必要がある。先ほど先生のお話にあったように、宿の前にスズムシの音を聴くことのできる場所があり、宿に着いたらガイドが案内してくれる、といったツアー的なものも良いかと思う。インバウンドの富裕層向けの宿泊などに、「鳴く虫を聴く」コンテンツを組込むという売り方もできるのではないか。手法は色々と考えられるが、どう売っていく

かが重要である。今、2025年の大阪・関西万博に向けて、いかにお客さんに地域で周遊してもらうかについて検討をしている。2024年度には周知をかける必要があるが、どのように情報発信していくかが課題である。本生態系ネットワークの取組についても観光部としてできることは協力させていただきたい。

会 長 ガイド養成も含め色々なハードルはあると思うが、実現できればと考えている。

委 員 京都市は環境先進都市として積極的な取組を展開されてきており、昨年11月には脱炭素先行地域にも選定されたところ。生物多様性の観点では、社寺林や企業緑地、里地里山など人の生活と関わって維持されてきた自然の価値が重視されるようになってきており、国際的にもOECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）としてそういった地域を維持保全することを加速していくことが合意されている。この京都市で生態系ネットワークを形成していくことは、環境先進都市としての取組に厚みを加えていくことにつながり、非常に意義があると思っている。当事務所でも地域の資源を活かした地域づくりの活動支援を行っているが、鳴く虫も地域の資源と捉えていくべきではないかというお話もあった。この協議会を通じても、京都のまちづくりのお手伝いをしていければと考えている。

委 員 本協議会を受けた取組が進み、京都市内の緑地を含めた桂川流域の生態系ネットワークが形成されることを期待している。京都御苑の「バッタが原」と「コオロギの里」ではマニュアルに基づいた草地管理を行っており、今後、協議会への協力を検討していきたい。

委 員 2018年に京都御苑を会場として秋の虫の音に親しむ集いを開催した。今回このような生態系ネットワークの取組に進展したことを非常にありがたく思っている。

委 員 京都市とともに京都観光モラルを進めている。これは市民、観光客、観光に携わる様々な事業者がお互いに尊重し合い共存できる形で持続可能な観光をつくっていかうというもの。今回の生態系ネットワークの取組についても持続可能な形にしていかなければもったいないと感じる。京都に多数いらっしゃる小規模ながらユニークな事業者を巻き込んで展開していくとよいのではないか。今後、取組を展開する上での予算はどうなるのか。

事務局 取組の広報については国交省の方でも可能かと考えているが、取組そのものに対する費用については予算付けしづらい。

- 会 長 国交省の事業として行う場合、協議会として外部予算を獲得して行う場合と色々なやり方があるだろう。スピンオフしながら、資金面も考えて進めていければと考えている。
- 委 員 生態系や生物多様性といった問題に対して金融機関からお手伝いすることは、今はあまりないかと思っているが、今後、お役に立てることを探していきたい。地元の事業者とのつなぎ役という面でお手伝いさせていただきたいと考えている。
- 委 員 金融機関として、地域の事業者との関わりという面で期待されていると思っているが、関わり方についてはこれから検討したい。個人的には、京都が歴史的に虫の音を聴く文化を育んできたという部分を大切にしたいこの取組は、非常に大事なことだと感じている。また、気候変動の中で生物の北限がどんどん上がって来ていると聞く。この京都でも今までは見られなかった虫や声を聴けなかった虫も増えてきているのかもしれない。多くの人に興味を持ってもらうために、そういった観点も入れて議論してはどうかと考えている。
- 会 長 南方系の虫が北上している可能性はあると思う。教育啓発の中で取組と関連付けながら考えていければと思う。
- 委 員 金融機関として何ができるかについてはこれから考えていきたい。生態系ネットワーク形成の中で、地域振興や経済活性化の部分でお客様をつなぐという点で貢献できるかと思っている。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）などにも取り組んでいるので、今後、金融機関として意見を述べていきたい。
- 会 長 生物多様性に関してはTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）が進んできている。経営の中にどのように生物多様性を取り込んでいくのか、それを支援しながら、投資家にどのように表現できるようにするのかということも大事な視点と考えている。これは改めて議論させていただきたい。
- 委 員 桂川河川敷に昆虫、鳴く虫が生息するということが、桂川流域、京都にとっても財産になるといいと考えている。さらに地域経済への貢献、また2025年の大阪・関西万博でも一つのツーリズムの目玉になるような形になっていくことを期待している。昆虫を指標種とする生態系ネットワークの取組は全国初の試みである。昆虫が生息する草地管理、またそれを通じた社会経済の貢献というところを目標に本協議会を進めていきたいと考えている。

事務局 (欠席委員のコメント紹介)

会 長 川という自然が残る場所を核にしながら、川から呼びかけて街中に自然、虫を広げていく、かつ、そこに文化も一緒に取り戻されていくような活動に広がっていけばいいと考えている。2025年の大阪・関西万博を見据えてすぐにでも動かすことができるようなフレームワークをつくっていくことが必要である。事務局中心に、色々なアイデアを集積しながら、皆さんと共有して前に進めていければと考えている。

以上